

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1	会 議 名	第 1 回 姫路市スポーツ推進計画検討会
2	開催日時	令和 6 年 5 月 2 1 日（火曜日） 1 0 時 0 0 分～1 1 時 4 0 分
3	開催場所	姫路市役所本庁舎 1 0 階 第 4 会議室
4	出席者又は欠席者名	（出席者）別紙 1 参照
5	傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、1 人
6	議題又は案件及び結論等	1 検討会の概要 2 現計画における姫路市の取り組み 3 計画素案（第 1， 2 章）の確認 4 計画体系の確認
7	会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙 2 参照

姫路市スポーツ推進計画検討会構成員名簿

(敬称略)

	氏 名	肩書等
出席	末井 健作	兵庫県立大学名誉教授
出席	松本 直子	姫路市スポーツ協会 副座長
出席	恒木 克仁	姫路市スポーツ推進委員会 座長
出席	早藤 卯人	兵庫県高等学校体育連盟西播支部 理事長
出席	内海 雅章	姫路市中学校体育連盟 座長
出席	田中 彰子	姫路市小学校体育連盟 副座長
出席	平山 秀子	姫路市立幼稚園健康推進連盟 理事
出席	小林 弘子	特定非営利活動法人 姫路市身体障害者福祉協会 副理事長
欠席	合田 勝彦	姫路商工会議所 専務理事
出席	岸田 直美	一般社団法人日本女子サッカーリーグ 理事
出席	天野 宏信	公募市民
欠席	山本 裕子	公募市民

別紙 2

事務局	1 開会（10:00）
	2 構成員紹介
	3 座長選出
座長	4 議題 (1) 検討会の概要 (2) 現計画における姫路市の取り組み (3) 計画素案（第 1， 2 章）の確認
委員	手柄山の新しい体育館や競技用プールはいつ供用開始か。
事務局	令和 8 年 10 月に供用開始予定。これ以降に総合スポーツ会館は閉館予定
委員	手柄山で大会があると駐車場が足りない。総合スポーツ会館の跡地は何になるのか。また、プロスポーツチームが増えてきている中で、「見る」だけでなく、合宿ができる施設が必要だと思う。手柄山をスポーツランドにしていきたい。
事務局	手柄山の駐車場の問題は認識している。総合スポーツ会館の跡地は、今後の課題である。
委員	身体障害者がスポーツするには、さまざまなセッティングを行うスタッフが必要。勝原校区では障害者と健常者のふれあいイベントとしてボッチャ、フライングディスク、卓球バレー、風船バレー、車いす体験等を行っている。卓球のセッティングができるスタッフがいれば助かる。
委員	姫路大学で卓球バレーと風船バレーのイベントが開催されており、ハリマアルビオンのメンバーが障害者の方とチームを組んで参加している。そこでは大学生がボランティアをしている。このような活動を行政が軸となって進めてほしい。

	スポーツ推進委員の活動内容を教えてほしい。
委員	広く住民にスポーツする場を提供するため、主に地域との連絡調整を担っている。スポーツボランティア活動も行っている。近年では障害者スポーツにも目を向けて活動している。
事務局	スポーツ推進委員自体がボランティア的な部分がある。校区ごとに1名しかおらず、働きながら担っておられる方も多い。ボランティア的な人の呼びかけする立場でもある。
委員	障害者スポーツと生涯スポーツの定義は、重なる部分が大いと思う。障害者と高齢者が一緒に活動できれば、元気な高齢者がセッティングをすることも可能。 就学前の子供たちは、遊ぶこと自体がスポーツに直結している。就学前のうちに運動好きになることが大切だと思うが、現計画ではこの年代について触れられていない。計画に位置付けるべきだと思う。 また、親子で楽しめたら親が運動好きになるきっかけにもなる。親子向けの行事を市主体でできれば良いと思う。
委員	県の推進委員の方では女性委員会があり、子育て中のメンバーも参加しやすいよう県の方でキッズルームを設けている。子供を預けられる場所があれば、女性や親子連れの参加も増えるのではないかな。
事務局	生涯スポーツという概念は、未就学児から高齢者までを含んでいる。両親が忙しいなら祖父母が孫を連れて、という方向性も考えていけたら良いと思う。
委員	私はパワーリフティングをやっており、アクリエひめじで全国大会をしている。市から補助金をいただいているが、スタッフ人件費等の捻出が困難なので、新施設の設定料金をどんと低くしてほしい。 県立武道館程度の設備ではプロやセミプロの合宿は呼べない。十分な筋トレができる施設を充実させてほしい。合宿の相談を受けたときに、自信をもって姫路

委員	を薦められるようにしたい。 スポーツで来た人が観光して帰るので、市一体となって受け入れ態勢を整えていく必要がある。昨年のスポーツ祭では、数日前に始まった工事の影響で車両が混雑した。ヨコの連携で何とかなる部分もあると思う。 過去に総合型地域スポーツクラブについて調べた際、兵庫県が突出していた。これを維持していきたい。親・子にとって学校は安心できる場所だと思うので、放課後にスポーツ活動があると安心できると思う。
委員	スポーツクラブ21の立ち上げ当初は827クラブあったが、今は720クラブに減った。スポクラに行けば誰かが見てくれるという安心感がある一方で、有事の際の責任問題もある。姫路市は、地域差はありながらも全71校区が頑張っている。
事務局	ハード面のご要望については、職員も同じ視点をもって取り組んでいるが、行政として複合的な対応が求められる中で、全員を満足させることはできないことを理解いただきたい。
委員	生涯スポーツを掲げるのであれば、未来を担う子供たちについて、計画に記載があるべき。県内の子供の体力は落ちてきているので、せめて姫路市だけでも自由に体力アップができる環境を整えてほしい。
座長	市民アンケート結果では、スポーツに参加する年齢は30～40代が少なくなっている。この年代のライフスタイルが、生涯スポーツの観点から重要と考えている。スポーツに関心がない人に興味を持ってもらうにはどうすればいいか、関連部署と連携を図りながら進めてほしい。
委員	障害者向けや、子供の送迎をする親御さん向けの駐車スペースが充実しているとありがたい。施設整備に当たっては、このような視点も取り入れてほしい。
委員	県の方では食育の話も出ている。肥えている子はスポーツ嫌いな子が多い。福

委員	崎町では「食育推進事業」を実施している。姫路は 53 万人もいるので福崎町とは状況が異なるが、小さいことからはじめていく必要があると思う。
委員	小学生のスポーツといえば野球かサッカーか、という時代ではない。小学校では、記録や勝敗にこだわらず、体育の授業を通じて運動を好きになってもらえるよう取り組んでいる。 (4) 計画体系の確認
事務局	コロナ禍を経て、スポーツに 1 人で取り組む人が増えている。市としては、たとえ 1 人でもスポーツをする人が増えれば良しとするのか、それとも地域コミュニティの観点からみんなでやるスポーツを推進していくのか。 また、e スポーツについてどのように捉えているか。
委員	子供がスポーツに関わるきっかけづくりとして、1 人で始めるのか、誰かと始めるのか、体育の授業なのか、間口が多いほど良い考えている。e スポーツについてもきっかけの一つになればと思っている。
事務局	高校生にもなると、e スポーツがスポーツを始めるきっかけになるというよりは、自身の身体能力では実現できないことを e スポーツで実現し、成功体験を得られることが現実的なメリットだと思う。
委員	e スポーツや食育について、市でどのように取り組むか検討する必要がある。 姫路市スポーツ協会は、以前は「体育」協会という名称であったが、スポーツ庁が発足し、世の中の流れとして単に体を動かすことだけではなく、より広く捉えていく方向性になっていることから名称変更に至った。「スポーツ推進計画」という計画名であるならば、より広く認めていく方向性になるのではないか。
座長	I T 化の流れはスポーツ界にも及んできている。身体機能の強化という従来の考え方は間違いではないが、そうでない方々もいる。高齢者や体が不自由な方々

	が画面を通じてスポーツ体験をするということをどう捉えていくか、方向性を見出す必要があると思う。
委員	女子サッカーや女子バレーが地元根付き、コンテンツが揃ってきた中で、スポーツ情報の発信強化、IT化にもっと注力すべきだと思う。私は積極的にスポーツに関する情報を得るようにしているが、初めて知るイベントも多い。一般市民にとってはさらに情報が行きわたらず、もったいなさを感じている。 スポーツコミッション主体かもしれないが、きっかけづくりのための情報発信、とくに忙しい30～40代が効率的に情報を得られるように、情報プラットフォームの構築が必要だと思う。各スポーツチームでは、YouTubeやTikTok、インスタグラムといった媒体を使い分けて効果的な広報をしている。
委員	市公式LINEには「観光」タブがあるが、スポーツ情報はない。例えば、この中に合宿情報一覧などが出てくると良いと思う。
委員	一方で、自治会の回覧板を主な情報源とするアナログ派の人間も多くいるので、考慮が必要である。
事務局	『広報ひめじ』やホームページでの周知は行っているが、ITの活用も含めて、スポーツコミッション事業を含めたPR体制の充実が課題だと思っている。
委員	基本方針の「1 スポーツを支える人材の育成」については、体罰やハラスメントについてもクローズアップする必要があると思う。
座長	委員の皆さまから出た意見は、主に以下のようなことであった。 ・市民アンケートは18歳以上だが、それ以前の年代についても考える必要がある。 ・手柄山新施設を多くの方が使えるように（国内外へ情報発信、ハード面の問題） ・障害者がスポーツをするための支援（ボランティア、高齢者、大学との連携等） ・スポーツ情報発信の充実（IT活用、ITが難しい方への対応の両輪） ・スポーツツーリズムの推進。eスポーツの位置づけ

事務局

・スポーツに関心を持ってもらう工夫を計画にどう記載するか。

次回の日程、後日連絡

5 閉会（11:40）